

環境委員会資料

1 所管事務の調査（報告）

（1）川崎港長期構想の改訂に向けた検討状況について

資料 川崎港長期構想の改訂に向けた検討状況について

港 湾 局

（令和4年7月28日）

川崎港長期構想の改訂に向けた検討状況について

1 川崎港長期構想について

- ・港湾の長期構想とは、法定計画（港湾法第3条の3）である港湾計画に先立ち策定するものであり、「概ね20～30年先の長期的視点に立った、総合的な港湾空間の形成とその在り方」をとりまとめるものとされている
- ・港湾局では、平成10年に策定した川崎港長期構想に基づき、川崎港を「工業港の有する機能を活かしながら、高度な物流拠点とする総合港湾」と位置づけ、関連する取組を進めているところ

2 川崎港長期構想検討委員会について

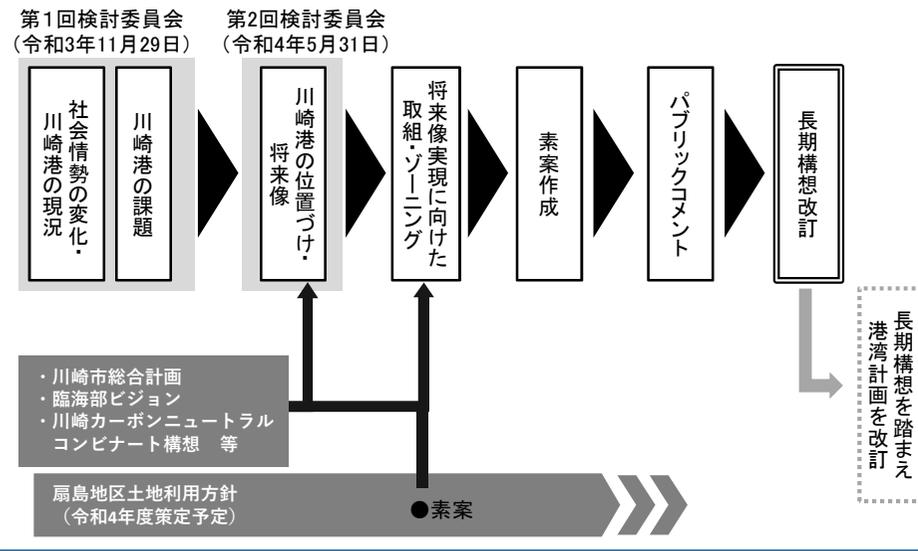
(1) 目的

川崎港に対する諸要請と今後果たすべき役割などを踏まえ、長期的視野に立った川崎港の将来像やその実現に向けた取組の方向性等を検討する。

(2) 委員

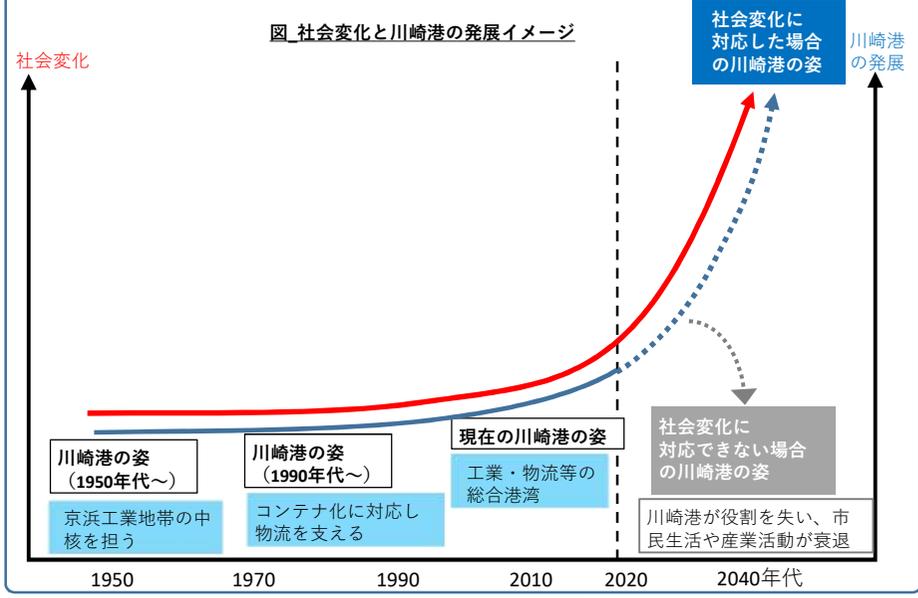
学識経験者 (6名) ◎：委員長	押田 佳子 日本大学理工学部 准教授 ◎須野原 豊 ウォーターフロント協会 会長 中村 由行 横浜国立大学大学院 元教授 平野 創 成城大学経済学部 教授 吉江 宗生 国立研究開発法人港湾空港技術研究所 特別研究主幹 渡邊 豊 東京海洋大学大学院 教授
港湾関係者 (12名)	川崎港運協会、川崎商工会議所、立地企業 等
関係行政機関 (3名)	国土交通省、海上保安庁

(3) 検討フロー



3 川崎港長期構想検討委員会における検討の方向性について

- ・川崎港はこれまで京浜工業地帯の中核を担い産業を支えるとともに、コンテナ化に対応し物流を支える等、社会の変化に対応して発展してきた
- ・**脱炭素化の加速**や**デジタル技術の革新**等、急激な社会変化が想定される将来（2040年代）においても有意な役割を果たすことができるよう新たな**川崎港の将来の姿（位置付け）**を設定し、**その実現に向けた取組**等を示す



4 川崎港の現況（強み）と課題の整理について

※主なものを記載

現況（強み）	今後取り組むべき課題
<ul style="list-style-type: none"> ・LNGや原油を輸入するエネルギー拠点 ・石油化学関連企業の集積 	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルコンビナートへの転換促進が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・冷凍冷蔵倉庫等の物流施設が集積 ・アジア各地との定期コンテナ航路が就航 ・国内外を行き来するRORO船が寄港 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定的な産業活動や市民生活確保のため、コンテナ・RORO船航路の充実など物流機能の強化が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・循環資源の輸出拠点であるとともに、リサイクル関連産業が集積 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらなるリサイクル推進のため、循環資源等の取扱い機能強化が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの事業所が立地 ・船舶や飛行機が行き来する眺望 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通アクセスの向上や施設の充実等により、就労者や市民の滞在環境の向上が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の緊急物資輸送拠点となる国の基幹的広域防災拠点が立地 	<ul style="list-style-type: none"> ・海上、陸上のアクセスの確保等、緊急物資等の輸送機能の強化が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・浮島2期地区で市内から発生する廃棄物等を受入 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等を活用した土地造成の推進が必要

川崎港長期構想の改訂に向けた検討状況について

5 川崎港の位置付けに関する検討状況について

現長期構想における川崎港の位置づけ

「工業港の有する機能を活かしながら、高度な物流拠点を有する総合港湾」

① 主な社会情勢の変化

- ・経済社会のカーボンニュートラル化が進展
- ・デジタル化等の技術革新が進展

② 新長期構想における位置づけに関する学識経験者等からの主な意見

- ・経済社会のカーボンニュートラル化等の社会変化に適応した力強く発展する産業を支え続けることが必要
- ・日本の主要な産業である自動車や化学産業が活動しやすくあり続けることが重要
- ・従来主眼に置いてきた産業活動のみならず、生活物資の輸入や立地特性を活かした特別な体験の提供を通じ、豊かな生活も支えていくことが必要
- ・カーボンニュートラル化等の社会変革に適応するとともに、持続可能な港として運営することが必要
- ・川崎臨海部ではカーボンニュートラルコンビナートの取組が進められ、循環型社会に貢献している企業なども立地していることから、川崎港長期構想においても環境を支えるといった意味合いを打ち出すべき

③ 主な関連計画における市域や臨海部の位置づけ

□ 川崎市総合計画

- ・成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまちかわさき
(まちづくりの基本目標：「安心のふるさちづくり」「力強い産業都市づくり」)

□ 臨海部ビジョン

- ・第4次産業革命を先導する新たな拠点を核に産業が波及し、日本の成長を牽引
- ・成熟社会における「豊かさ」を実現し続ける、ワクワク感を抱ける地域

□ 川崎カーボンニュートラルコンビナート構想

- ・カーボンニュートラルなエネルギーの供給拠点の形成
- ・炭素循環型コンビナートの形成

①、②、③を踏まえ、新長期構想における川崎港の位置づけを検討

6 川崎港の将来像に関する検討状況について

新長期構想における川崎港の位置づけ

① 川崎港の将来像検討の考え方

- ・川崎港の持つ強みをいかせる分野に集中
- ・持続可能な開発目標（SDGs）に寄与するものに集中
- ・川崎港が有する社会的な責任を果たす
- ・将来の技術革新を積極的に活用する

② 将来像に関する学識経験者等からの主な意見

● カーボンニュートラル化に関するご意見

- ・産業集積のメリットを活かし、各業界が連携して、川崎臨海部で生成・製造させる水素やグリーン電力を首都圏全体に供給することで、首都圏全体のCO2削減をこのエリアが先導的に担っていくことが大事

- ・立地企業が協力し合い、港全体としてカーボンニュートラル化に取り組んでいけるとよい

● コンテナ貨物の取扱等、物流機能の強化に関するご意見

- ・船舶の大型化にも対応し、効率的な配船や荷役ができることよい
- ・背後にある冷凍倉庫が川崎港の強みであり、これを活かせる港を目指すべき

● 循環資源の取扱強化に関するご意見

- ・カーボンニュートラル化への対応として、リサイクル産業の集積という強みも活かし、大きな役割を果たしていけたらよい
- ・鉄スクラップは電炉の資源として、今後は海外需要に加え、国内での需要拡大が予想されるため、川崎港は引き続き輸送拠点を目指すべき

● 働きやすさや人が集まりやすい環境づくりに関するご意見

- ・川崎港の特性を活かし、魅力を知ってもらえるような機会をつくることで、今後の労働力の減少や人口の減少に対応できるとよい
- ・住宅地に近接していない、羽田空港や船舶の眺望、大規模な緑地といった川崎港の特徴を活かした体験を提供できるとよい

● 災害時の市民生活や産業活動の継続支援に関するご意見

- ・産業の活動を被災時でも維持する、事業継続性を確保していく観点も重要

● 持続的な管理運営に関するご意見

- ・デジタル技術を物流の効率化や渋滞対策、施設の維持管理等に活用できるとよい

①、②を踏まえ、新長期構想における川崎港の位置づけを具体化した、

川崎港の将来像を検討